

令和8年度 病虫害発生予察 特殊報 第1号

病虫害名： カラタチトビハムシ
Podagricomela weisei

対 象： カンキツ

1 病虫害情報の内容

カラタチトビハムシの発生と被害を、東京都区部および多摩地域において確認した。

2 発生経過

- (1) 令和8年4月に区部のカンキツ圃場でカラタチトビハムシ成虫および幼虫の寄生を確認し、6月に多摩地域のカンキツ圃場で成虫の寄生を確認した。農林水産省横浜植物防疫所に同定を依頼した結果、カラタチトビハムシと同定された。
- (2) 本種は中国原産であり、国内では2006年に千葉県で初めて確認されて以降、東京都、茨城県、埼玉県、栃木県においても発生が確認されているが、生産圃場での作物被害の報告はない。

3 形態

成虫の体長は2.9～3.5mm、黄褐色の頭部を除き体背面が金属光沢を伴う緑色、触覚は黄褐色基部4節を除き黒色、肢は全体が黄褐色（図1）。

4 生態

国内ではカラタチ、レモン、ユズ等のミカン科の植物で発生が確認されている。3～4月に越冬成虫が出現、葉に産卵し、幼虫は葉を摂食した後、土中で蛹化し、羽化した成虫は一旦地上に現れるが、再び土中に潜り翌春まで休眠、越冬すると考えられている。

5 被害

成虫と幼虫ともに葉を食害し、幼虫は葉の内部を潜行する（図2～4）。

6 防除対策

本種を対象とした登録農薬はないため、捕殺等の物理的な防除に努める（令和8年6月現在）

7 参考文献

- (1) 南ら. 2016. 外来種カラタチトビハムシ（新称）における知見. 月刊むし No. 544 : 44-47
- (2) 坂本ら. 2020. カラタチトビハムシ（コウチュウ目：ハムシ科）の茨城県での初記録. 茨城県自然博物館研究報告（23） : 57-58
- (3) 神尾. 2025. 栃木県における外来種カラタチトビハムシの記録. 月刊むし No. 652 : 58-59



図1 カラタチトビハムシ成虫（左図：背面、右図：横面）



図2 幼虫



図3 幼虫の潜行による食害痕



図4 多数の幼虫による新葉の被害